

早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科
修士課程2年制 入試問題の訂正内容

<スポーツ科学研究科：修士課程2年制(秋期) 一般入試>

【一般】

●問題冊子1ページ 設問Ⅰ 【問題3】 語群

(誤)

ウ. 直向きさ

(正)

ウ. ひたむきさ

●問題冊子6ページ 設問Ⅴ 問題文1行目

(誤)

以下の空欄を(41)から……

(正)

以下の空欄(41)から……

以上

2018年度 修士課程入学試験（秋期）

試験問題〔一般〕

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

問題を全て答えなさい。全受験生共通問題です。

必ず記号で解答すること。記述にて解答した場合は採点されません。

I.

各設問の空欄（ 1 ）から（ 10 ）に当てはまるものを、下記の語群から1つずつ選んで、その記号を回答欄に記入しなさい。

【問題 1】

宮本武蔵は心の問題を重視して「常の心」を強調し、他方で兵法（剣術）に（ 1 ）性を求めました。

ア. 意外 イ. 実用 ウ. 芸術 エ. 芸道

【問題 2】

スポーツ活動は一種の「社会資本」を構築する上で役に立つことがあります。そこでいう「社会資本」とは、その社会でやっていくために役に立つ（ 2 ）です。

ア. 資金、リソース イ. 習慣、生活様式 ウ. 知識、技能
エ. 人間関係、ネットワーク

【問題 3】

女性スポーツの報道は（ 3 ）を強調する傾向があります。

ア. 業績 イ. 性差 ウ. 直向きさ エ. 平等主義

【問題 4】

日本ではノコギリを手前に引いて木を切るのに対し、ヨーロッパでは逆に押して切ります。同じ目的の動きも、社会や民族によって違っています。文化は動きをも拘束しますが、文化に縛られたこうしたからだの動きのことを（ 4 ）といいます。

ア. 技能 イ. 技術 ウ. ノンバーバルコミュニケーション
エ. 動作 オ. 身体技法

【問題 5】

19 世紀末～20 世紀初め、当時アメリカ野球界の中心人物だった（ 5 ）は、「野球起源調査委員会」（1905 年）を設立し、野球がアブナー・ダブルデーによって考案されたとの「神話」を生み出しました。

ア. アルバート・スポルディング イ. アレクサンダー・カートライト
ウ. J・A・ネイスミス エ. ハリー・ライト

【問題 6】

現在上演されているケチャは、(6) の呼吸法を取り入れたものや、映画からヒントを得たものなどが、各村落がオリジナルなものを創っています。

ア. 能 イ. ヨガ ウ. 太極拳 エ. ピラティス

【問題 7】

我が国の体育の授業の理念は歴史的には身体教育、(7) を通しての教育、スポーツの教育と変遷してきたと言われています。

ア. 活動 イ. 運動 ウ. 体操 エ. 競技 オ. ゲーム

【問題 8】

すべての人々に健康で文化的な生活実現に必要なスポーツに関する基礎的教養を保証しようとする、アメリカのナショナルスタンダードを方向づける理念を (8) といいます。

ア. 身体的教養を備えた人物 イ. 上級スポーツ授業
ウ. みんなのスポーツ エ. スポーツ教育

【問題 9】

よい体育授業を成立させるための条件には内容的条件と基礎的条件の2つがあります。そのうちの基礎的条件には、効果的なマネジメントや学習規律の確立が含まれますが、それらは (9) を生み出す要因になるとされています。

ア. よい授業の雰囲気 イ. 学習の勢い ウ. オフタスク行動
エ. 学習者間のコミュニケーション

【問題 10】

スポーツ時空間を文化の側から見れば、三つの側面がありますが、そのうちルールや組織・運営など人間関係とかかわるものを (10) といいます。

ア. 健康文化 イ. 社会文化 ウ. 精神文化 エ. 技術文化

II.

以下の設問に対して、正しいものには「ア」を、間違っているものには「イ」をつけなさい。

- (11) スポーツ産業の進化過程で、伝統的なスポーツ用品産業、スポーツサービス情報産業、スポーツ施設空間産業の中核に出現したのが「ハイブリッド産業」という新しい複合領域であり、プロスポーツやメガスポーツイベントが含まれる。
- (12) わが国のスポーツ用品産業の歴史は比較的新しく、戦後に幾つかの会社が立ち上がった。
- (13) スポーツ振興投票の売り上げの配分比で、当せん払戻金の割合は 50%である。
- (14) オリンピックにおける TOP プログラムとは Total Olympic Program プログラムの略称である。
- (15) 欧州メディアにおける「ユニバーサルアクセス権」とは、国民に人気が高く、普遍性、公共性の高いスポーツイベントは、無料で誰でも視聴する権利のことを意味する。
- (16) リーグとチームが、契約等によって、経済的な単一の事業体として運営される方法を「ジョイントベンチャー」と呼ぶ。
- (17) スポーツビジネスにおけるトリプルミッションとは「強化」「普及」「資金」のことを意味する。
- (18) 総合型地域スポーツクラブの設立数は、すでに 1 万を超えている。
- (19) スポーツマーケティングにおける 1 業者 1 社の制度は、スポンサーメリットを集中的に高める方式である。
- (20) プロスポーツにおける放送権料は、ひじょうに高額化しているが、その勢いは衰えず、毎年金額が増えている。

Ⅲ.

以下の（ 21 ）から（ 30 ）の問いに対して、正しいものには「ア」を、間違っているものには「イ」を選んで、その記号を解答欄に記入しなさい。

- （ 21 ）生活習慣の悪さはいくつかの悪性新生物（癌）の原因と考えられている。
- （ 22 ）高強度の持久的運動の後には免疫機能が高まり上気道感染が減ることが知られている。
- （ 23 ）平均寿命が延びた現代では、骨や軟骨の老化による病気が減少している。
- （ 24 ）熱中症では体温調節機構が破綻しているため、身体の冷却を安易に行ってはいけない。
- （ 25 ）急性のスポーツ外傷には疲労骨折、靱帯損傷、肉離れなどが含まれている。
- （ 26 ）けがの直後に患部を冷やすことで代謝活性を抑え細胞壊死を減らすことができる。
- （ 27 ）運動習慣を持つことで、睡眠中の目覚めが減り睡眠が安定することが知られている。
- （ 28 ）健康づくりの基準値としての身体活動量は性・年齢別最大酸素摂取量で示される。
- （ 29 ）ATC ははり師・きゅう師、理学療法士などの国家資格を有するトレーナーをいう。
- （ 30 ）期間によりトレーニング強度・量・種目を調整することを期分けと言う。

IV.

以下の空欄（ 31 ）から（ 40 ）に最も当てはまるものを下の語群から1つずつ選んで、その記号を解答欄に記入しなさい。

【問題 1】

隣り合う骨同士を結合している靱帯の内側に、（ 31 ）で満たされた空間（関節包）をもち、可動性を高めた部分が関節である。肘関節は上腕骨と尺骨によって構成される（ 32 ）関節であり、上腕と前腕は1つの軸のまわりに屈曲・伸展運動を行う。一方、肩甲骨と鎖骨、上腕骨をつなぐ肩関節は（ 33 ）関節であり、上腕は体幹に対して、前後・上下・左右といった様々な方向への運動が可能である。

【問題 2】

ビタミンには（ 34 ）と（ 35 ）のものがある。とくにビタミンB群に属する各種ビタミンやビタミンCなどの（ 34 ）ビタミンは体内に貯蔵することができないため、日々摂取しなければならない。（ 35 ）ビタミンは体内に貯蔵され、成長促進、骨形成、抗酸化機能、血液凝固など生体にとって重要な機能を担っている。

【問題 3】

身体運動における動作を定量するために収集するデータは、（ 36 ）データと（ 37 ）データの2種類に分類できる。前者は物体の位置や向きの変化を定量するものである。後者は、身体運動を生み出す原因となる力やモーメントに加え、物体を変形させる原因となる応力を定量するものである。

【問題 4】

脳内情報処理過程は（ 38 ）から推察できるが、脳の活動をより直接的にとらえるためには、脳波や機能的MRIによる脳機能計測が必要となる。脳波には、（ 39 ）は高いが（ 40 ）は低いという特徴がある。機能的MRIには、（ 40 ）は高いが（ 39 ）は低いという特徴がある。

語群

ア. 妥当性	イ. 信頼性	ウ. 一過性	エ. 恒常性	オ. 脂溶性
カ. 水溶性	キ. 量的	ク. 質的	ケ. 空間分解能	コ. 時間分解能
サ. キネティック	シ. キネマティック	ス. 蝶番	セ. 特異	ソ. 球
タ. 回転	チ. 反応時間	ツ. 脳容積	テ. リンパ液	ト. 滑液

V.

以下の空欄を(41)から(50)に最も当てはまるものを下の語群から1つずつ選んで、その記号を解答欄に記入しなさい。

(41)は、スポーツ成果を高めることだけで(42)とは考えにくく、それぞれのスポーツ種目の歴史や支援者・応援等の環境すべてを好転するための(43)を構築することが求められます。

ア. システム	イ. 観客	ウ. スポーツコーチング	エ. 個別指導	オ. コーチ
カ. 目的達成	キ. 技術	ク. 器具	ケ. メンタル	コ. 馬術

スポーツ場面で、フィロソフィ「(44)・(45)」は根幹をなすものであり、コーチング場面で基軸として(46)的な理念を構築されつつあります。

サ. 戦術	シ. 哲学	ス. 競技者	セ. 絶対	ソ. 支援
タ. 原理	チ. 相対	ツ. 技能	テ. 引退	ト. 構築

スポーツに初めて出会うジュニア期から(47)に至るまでの過程で、個々の競技者の特性や発育・(48)段階を適切に把握し、それぞれの段階に応じた適切な(49)を行うことによって競技者の有する資質・能力を最大限に引き出し、最終的に世界レベルで戦える競技者に育成・強化すること、さらにはその過程で競技引退後の(50)にも配慮した指導を行うことです。

ナ. 知的	ニ. セカンドキャリア	ヌ. 企業スポーツ	ネ. トップレベル
ノ. 後天的	ハ. 発達	ヒ. トレーニング	フ. 個人種目
ヘ. 集団	ホ. チーム種目		

2018年度 修士課程
入学試験(秋期)
解答用紙〔一般〕

受験番号					
氏名					

※欄は記入しないで下さい。

I	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)

※

II	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)
	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)

※

III	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)
	(26)	(27)	(28)	(29)	(30)

※

IV	(31)	(32)	(33)	(34)	(35)
	(36)	(37)	(38)	(39)	(40)

※

V	(41)	(42)	(43)	(44)	(45)
	(46)	(47)	(48)	(49)	(50)

※

※
